

OPAC 通信

Okinawa
Peace Assistance
Center

特定非営利活動法人
沖縄平和協力センター (OPAC)
沖縄県那覇市久米1-5-18 稲福ビル 201-B
TEL (098) 866-4635 / FAX (098) 866-4638

www.opac.or.jp
(<http://blog.livedoor.jp/opac/>)

2013 September (2)

Transforming Okinawa's Heart into Action

平和教育における意識調査

沖縄県民のおよそ4分の1が犠牲になったといわれる沖縄戦から68年。戦争体験者も次第に少なくなり、沖縄戦当時5歳ほどでかろうじて戦争体験を記憶している方たちは70代半ばを迎えます。世代が移っていくにつれ、「沖縄戦」が過去の出来事の一つとなり、いつかは忘れられてしまうのでしょうか。

OPACでは、今年5月から平和教育に関する実態調査を実施しています。調査を通して、戦争体験者から実際に話を聞いた経験がない児童生徒がいることも分かりました。また、沖縄で地上戦が起こった経緯や、いわゆる「集団自決」についても耳にしたことがない子供たちもたくさんいます。先生方も、教育現場での限られた時間と労力の中で、どう沖縄戦を継承していくべきかを模索しています。戦争体験者が少なくなるにつれ、家族で戦争や平和について話す機会も次第に失われているようです。平和教育、そしてその中での沖縄戦の位置づけが希薄になりつつあるように感じます。一方で、沖縄戦の伝承を柱とした従来の平和教育そのものに疑問を持つ声があることも事実です。しかしながら、沖縄戦という沖縄の「痛み」は次の世代へもしっかりと伝えていくことが大切であると考えます。

沖縄が、益々グローバルな歩みを目指していく中、子供たちは、沖縄戦を原点としつつも、日本が関わった大戦の歴史の全体像を知っておく必要があります。平和を伝える方法は様々です。戦争・紛争を伝える方法も様々です。果たしてどのような方法が効果的でしかも時代に適合しているのか、この平和教育の実態調査が少しでも沖縄の平和教育の今後に貢献できることを願います。

(当間)

東京国際大学の生徒との交流

9月11日水曜日、東京国際大学の学生がOPACを訪問し、仲泊事務局長からOPACや沖縄の米軍基地問題について説明を受けました。まず、OPACの設立趣旨や、今年度実施する事業について説明がありました。次に、在沖米軍基地問題について、軍用地問題や米軍基地の概要、オスプレイ配備などの様々なトピックに話が及びました。

学生のみなさんは、NPO法人の活動や基地問題に強い関心を示し、多くの質問を投げかけました。OPACが実施している東ティモール草の根事業について、沖縄・読谷村での受け入れ理由に関する質問に対し、仲泊事務局長は、東ティモールと沖縄の間では、自然環境だけでなく戦争・紛争を経て復興に取り組むという類似点があること、とりわけ読谷村は平和的手段での基地返還や地元産業の育成を通しての地域振興を実現するなど、東ティモールの紛争予防能力向上に大きく貢献できるノウハウを持っていることを説明しました。(真志喜)



東京国際大学のみなさんと仲泊事務局長

編集後記

OPAC通信9月号を担当した明治学院大学2年の当間です。私はインターン生としてOPACの仕事に約2週間ほど関わらせていただきました。このインターンを通して、私は沖縄で生まれ育ってきたにもかかわらず、沖縄を取り巻く問題を表面的にしか理解していなかったことを改めて痛感しました。沖縄が直面する課題は、歴史的背景、国家間の問題等、多くの要因が複雑に絡んでいます。この実習を機に、私が興味を持った問題について、これから自分なりに学び、更なる知識を増やしていきたいです。OPACでのインターンはとてもいい経験になりました。お世話して頂きありがとうございました。(当間)

OPAC通信9月号を担当した法政大学3年の真志喜です。OPACでインターン生として関わらせて頂きました。東京国際大学ゼミの訪問時、私も一緒にお話を聞くことができました。OPACの設立趣旨の説明で、アジアの平和が米軍基地の整理・縮小に結びつくということを知りました。これまで私にとって国際協力がもたらすものは漠然としたものでありましたが、国際協力が沖縄基地の整理・縮小という具体的なことにもつながると気付くことができました。このインターンで学んだことを今後の大学生活にも生かしていきたいと思えます。短い間でしたが、ありがとうございました。(真志喜)